

表4、No.3 (日高町産)

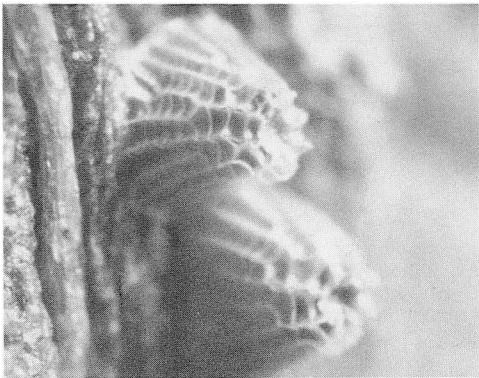
上部 \ 下部	20	21	22	23	計
8	1	6	0	1	8
9	0	4	1	0	5
10	0	0	0	0	0
11	0	1	0	0	1
合計	1	11	1	1	14

おわりに

今回は強制産卵させた3♀のオオウラギンヒョウモンの卵の一部について、縦隆起条数だけを調査したが、3例とも同じ母蝶から採取した卵の中で、形状にかなりの個体差が存在した。また同一の産地であるNo.1とNo.2の母蝶の卵の間にも明らかな差異が存在した。

本種の卵に地理的変異があるかどうか興味あるところだが、No.1、No.2、とNo.3の両者の間に差を認めることは出来なかった。今後調査数を増やすこと及び他産地の卵の調査を進めていくことにより、明らかになると思われる。

本調査にあたり、貴重な卵をいただいた木村三郎氏卵の調査に御協力いただいた山口福男、矢野進治、福永智子の諸氏に深くお礼を申しあげる。



撮影者…山口福男

<参考文献>

近藤伸一 兵庫県の山地性オオウラギンヒョウモンについて (II)  
(てんとうむしNo.8 181~185)

白水隆 原章…原色日本蝶類幼虫大図鑑 (保育社)

牧林 功 チョウの幼虫の形態 (ニューサイエンス社)  
(S.62:Shinichi Kondo 神戸市)

## 材から得たカミキリ

花岡 正

1984年から1986年にかけて、県下の3地区の材から得たカミキリを報告する。

美方郡浜坂町

①キブシ ①ヒメクロトラ②トゲヒゲトラ③コジマヒゲナガゴバネ④ヒメヒゲナガ⑤ケシカミキリ⑥トワダムモン⑦シロスジドウボソ (4日に越冬成虫、幼虫割出)

⑧カラスザンショウ ①ヒトオビアラゲ②フタオビアラゲ③キボシカミキリ④タイワンメダカ

⑤カクレミノ ①タテジマカミキリ (1985、VII、29羽脱)

⑥タブ ホシベニの幼虫だけ確認

宍粟郡波賀町赤西、音水渓谷

⑦エゾエノキ ①アカネクスジトラ②ホソツヤヒゲナガゴバネ③クワサビ④シロオビゴマフケシ⑤エゾサビ⑥クモガタケシ⑦キッコウモンケシ⑧トゲバ⑨ナガゴマフ⑩アカジマトラ⑪クリサビ⑫トラフホソバネ⑬ホソヒゲケブカ⑭ニイジマチビ⑮ヨコヤマトラ (1985IV、22、1♀、IV231♂脱出)

⑯ケヤキ ①トガリバアカネトラ②キンケトラ③ヒメクロトラ④タギグチモモト (一瀬氏) ⑤ナカジロサビ

⑰モミツガ ①ヤマトシロオビトラ②セミスジコブヒゲナガ③キボシチビ (1985VI 4脱出)④ヒトオビチビ (吉田氏) ⑤ツヤケシハナ⑥ニンフホソハナ

⑱カラスザンショウ ①キイロアラゲ (1985VI20より脱出、多数) ②タイワンメダカ③フタオビアラゲ④ヒトオビアラゲ⑤トラフホソバネ (黒田、吉田氏) ⑥チャボヒゲナガ

⑲ブナ ①タカオメダカ②フタオビミドリトラ③クモガタケシ④ガロアケシ⑤フタモンアラゲ

⑳カエデ ゴイシモモト

㉑フジ ①カッコウメダカ②トガリシロオビサビ③アトモンマルケシ

㉒ヤマグワ ①キバネアラゲ

揖保郡御津町室津

- ①クサギ ①ケプトハナ②アトモンマルケシ③アトジロサビ
- ②ハゼ ①ヨコヤマヒメ②ケシカミキリ③ガロアケシ
- ③アカメガシワ ①ズマルトラ②ガロアケシ③アトモンマルケシ④ヨツスジトラ
- ④カエテ ①アオカシキリ (黒田氏)
- ⑤フジ、アケビ ①カツコウメダカ②ドガリシロオビサビ③アトモンマルケシ
- ⑥アベマキ ①キイロトラ②キマグラヤマカミキリ (黒田氏)
- ⑦ヒメヤシャブシ ①ハンノキカミキリ

坂、谷林道のエゾエノキからゴイシモモブトが多数羽脱したとの吉田氏の報告有り。

発表にあたり、黒田、吉田、一瀬氏の御協力に深謝致します。

(S.19:Tadashi Hanaoka 揖保郡太子町 )

近辺で2年連続か年を隔てて採集されている例も多く、少ないながら土着しているのではないと思われる。

2年連続同一場所かその付近での記録としては、姫路市網干区新在家、五色町広中、神戸市北区山田町ではそれぞれ1979年と1980年に、新宮町善定では1980年と1981年に、御津町御津周辺では1985年と1986年に記録があり、その他にも、相生市、猪名川町、宝塚市、南淡町、洲本市などでは毎年連続ではないが何回かとれている。

表. 年次別採集個体数表 (1950年-1986年)

年次	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	'60
採集数		1		1		1	3	2	3	1	
年次	'61	'62	'63	'64	'65	'66	'67	'68	'69	'70	'71
採集数		1	1							1	4
年次	'72	'73	'74	'75	'76	'77	'78	'79	'80	'81	'82
採集数		3	4	1		5	1	12	12	1	
年次	'83	'84	'85	'86						※	計
採集数	2	5	4	1						5	75

※ = 年代不明

本種のような暖地性の蝶にとっては、土着するためには冬季の可酷な気象条件をいかにのり切るかというところにあると思われるが、これまでの例を見る限りでは1-2月の最低平均気温が高かった1976年には採集例がなく1978年も1頭にとどまっている。その反面、気温が低かった1977年には4頭も採集されており、この相関関係については、今のところ何ともいえない。今後どのような経過を辿るのか興味を引くところである。

本稿を草するに当り、森下泰治、山下剛史、西隆広、高柳栄一、近藤伸一の各氏には採集記録を御提供いただいた。御厚意に深く感謝申し上げる次第である。

〈参考文献〉

広畑政己(1982) 兵庫県産蝶類分布資料(2) てんとうむし(8) : 30-32  
 広畑政己(1984) 兵庫県産蝶類分布資料(3) てんとうむし(9) : 18-19  
 加藤信一郎(1984) 宝塚市清荒神のチョウ(追録3) きべりはむし12(1) : 29  
 前川和昭(1984) 採集4例の報告 Parnassius(31) : 7  
 杠 隆史(1985) 六甲山系の蝶(2) crude(26) : 13-16

(S.28: Masami Hirohata 姫路市 )

県下に於けるクロコノマチョウの分布について

広畑 政 己

暖地性の蝶で近年東進北進をしている蝶はナガサキアゲハなど数種が挙げられるが、本種もその一種であろう。兵庫県では春季の記録も含め、1985年までに筆者の手許にある記録をまとめてみると64頭が採集されている。それらは広畑(1982,1984)、前川(1984)、加藤(1983)、杜(1985)その他で報告されているが、記録をさがしていると、この他に10頭の個体が採集及び目撃されていることがわかったので、それを従来の記録に加えて、年次別にどのような経過を辿ってきたかをまとめてみた。

新たに記録のあった産地は神戸市長田区双葉町で1980年に1頭、1984年に2頭採集されており、その他に宍粟郡波賀町赤西溪谷で1984年に3頭、芦屋市三条町で1985年に3頭、揖保郡御津町稲富で1985年に1頭、同町室津で1986年に1頭が採集及び目撃されている(以上未発表)。これらはすべて夏以降の記録である。

1951年に有馬温泉で初めて採集されてから60例75頭を数えるが、近年採集例も増え、1980年には夢前町と新宮町では春季の記録もあり、また、同一場所かその